

## 2017年度 学校評価結果(自己評価)

東海大学付属甲府高等学校

5～1は教員評価(5よい 4おおむねよい 3どちらともいえない 2やや不十分 1不十分)

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
学校運営		学校運営方針や教育目標は、概ね全教職員の共通認識が図られている。また、教職員、保護者とも学校の特色をよく理解している。生徒への浸透をさらに深めていきたい。 施設・設備面では竜王グラウンドが完成したが、校内の環境整備について生徒に十分な満足が得られていないようである。	3.5	学校運営方針を全職員が更に理解共有し、力を合わせ、教育活動を行う。 また、組織的に改善に向けた取り組みができるよう、情報の共有を進めていく。 学校施設・設備については、中長期計画を策定し、優先順位をつけて整備する必要がある。
教育目標の推進	「生徒が主役～あなたの生きる力を育てます」のスローガンを推進する	主役である生徒が活躍する舞台である学校に愛着が持てる指導を行い、生徒・保護者とも概ね誇りや愛着を持つことができた。また、クラス・学校の一員としての役割も果たすことができた。 生徒の悩みや問題などへの対応については、他の項目に比べ生徒からの数値が低く、教職員の認識との乖離があった。さらに生徒と向き合う姿勢を示していかなければならない。	3.7	主役である生徒が活躍する舞台である学校が楽しく、誇りや愛着が持てるよう、クラス・部活など様々な場面で生徒に寄り添う指導を行い、生徒一人ひとりの輝きが一層増すように努める。
学習指導	基礎学力を定着させる	1年生に対して定期試験前の学習調査を年5回実施し、学習実態を分析した。この結果から、家庭学習そして、学習習慣の確立を図る必要がある。 英語力向上の取り組みとして、1学年進学クラスに対して、数学に続き、英語における習熟度別授業を展開し、来年度も継続する。	3.2	土曜課外、GTEC試験等を実施し、更なる基礎学力の定着、英語力向上に取り組み。学校全体の取り組みとして、課題を定期的に課し、提出、評価、宿題のサイクルを確立することで学習の習慣化を図る。 分かりやすい授業を展開するために研究授業を開き、教員の指導力を磨く。
生活指導	生活指導を徹底させる	集会での啓蒙活動やポスターの掲示を行うなど、校則を守らせる指導をしてきた。生徒は守れたとの結果がでている。昨年に比べて、校則違反などで指導を受ける生徒、携帯電話の使用マナー違反者の数は減少傾向にあるが、まだまだ指導が必要である。 通学・交通マナーについてもほぼ守れたとの結果だが、まだ苦情の連絡が入ることがある。 一方で、挨拶のできる生徒は増える傾向にある。	3.8	挨拶・身だしなみ(頭髪・服装)については、声掛け運動やポスターによる啓蒙をこれからも続けていきたい。また、立門指導や昼休みの巡回など工夫して取り組んでいく。 学年や学級担任と報告・連絡・相談をしっかりとして学校全体で生徒指導に当たっていき、見て見ぬふりをしない指導を徹底していきたい。
特別活動 (委員会など)	新しい教育活動に取り組む	昨年度に引き続き、メディアセンターを中心として図書室利用の推進を図った。今年度は図書貸し出し数の増進を目指し、昨年度の約3割増しに増加した。またテスト前の学習での利用者も定着してきたように思われる。しかしながら図書室利用状況はまだ満足できる状況にはないので、さらなる改善策が必要である。 生徒会では、昼休みの放送・挨拶運動を1年間通して取り組むことができた。挨拶運動に関しては、生徒会だけではなく、生活委員会も行い全校生徒が挨拶に対してもっと考えていくようになったと感じる。生活委員会だけでなく、他の委員会も行いたいと生徒から意見が出るような学校作りが出来ればよい。	3.4	学習のために利用できる図書室をめざし、環境整備はもちろんであるが、今年度は授業で利用できる図書室にするための改革を行う。また新入荷本の紹介やイベントの告知など、昨年度以上に生徒への情報伝達を密に行いたい。 放送・挨拶運動は、継続して行っていき、放送では各部活動の活躍を中心に放送できれば良いと考える。また、その部活動の活躍を放送だけでなく、生徒が見れるような場所を設けていきたい(ポスターや写真)。
特別活動 (部活動)	部活動を充実させる	竜王グラウンドの完成など、練習環境も良くなり、教職員は更に熱心に部活動の指導を行っている。生徒も一生懸命に練習に取り組んでいる。また、保護者には試合・大会の応援を積極的に参加していただいた。	4.0	東海大学が学園をあげて取り組んでいる「文武両道」をより高いレベルで具現化できるよう、練習環境の整備を行い、更に推進を図っていく。
進路指導	進路指導を充実させ、付属推薦の達成値を実現させる	1・2年生それぞれで、進路学習会を実施し、1年次に働き方と収入、2年次に職業からの学部選びとった流れで行った。3年対象の小論文講座をI期とII期に分けて、全10回実施した。I期については80名近い参加があり東海大学の小論文試験に対する意識の高さを感じた。7月に就職ガイダンス、模擬面接を実施したが、時期的早かったため、切実感が無く真剣みが欠けた。1・2年生対象の学部学科説明会では、希望のある全学部を対象とした説明会の実施が望まれる。	3.5	進路学習会については概ね良好であるため、来年度も継続実施が望ましい。 LHRを利用し自己分析・適性発見プログラムを実施する。就職ガイダンスを8月下旬の実施とし、差し迫った緊張感のある就職指導にする必要がある。小論文講座は好評であるため来年度も実施する。学部学科説明会を土曜日に実施し一貫教育課と連携し、全学部の説明を聞くことができるようにしたい。
地域連携 校友会活動	保護者や関係者との協力関係を推進する	保護者や関係者への情報発信に努め、協力関係の構築を図った。また、外部評価委員会では保護者・地域の方・校友会関係者からの意見を聞くことができた。地域の清掃活動や雪かきなどに取り組み、地域社会とのつながりを大切にしたい。	3.9	校友会との連携を更に一層強化するとともに、地域社会との信頼関係を構築し、学校・校友会・地域社会が一体となり学校運営ができるよう努める。